

# 会務報告

## ◇ 委員会報告 ◇

### ● 大会委員会

◆2013年5月25日（土）、26日（日）、2013年度日本語教育学会春季大会が立教大学池袋キャンパスで開催された。参加者は招待者・関係者を含めて1,170名であった。

1. 1日目は、開会式に続いて授賞式が行われ、論文賞の田川麻央氏、大関由貴氏・遠藤郁絵氏、奨励賞の齋藤ひろみ氏、学会賞の仁科喜久子氏がそれぞれ受賞した。各受賞者から受賞者スピーチがあった。
2. 開会式・授賞式に引き続き、三つの会場で6件のパネルセッションが行われた。各パネルとも熱心な発表、討議が行われた。
3. 懇親会は、キャンパス内にて軽食スタイルで行われ、招待者・関係者を含めて178名の参加者があった。
4. 2日目には、四つの会場で32件の口頭発表、四つの会場で20件のポスター発表、三つの会場で5件のデモンストレーションが、それぞれ行われた。どの分科会も盛況であった。

◆2013年5月26日（日）、立教大学池袋キャンパス4号館404教室において2013年度第1回大会委員会が開催された。今回は、委員改選時にあたり、現委員と次期委員の合同の委員会として開催した。主な議題と審議の概要は以下のとおりである。

#### 1. 2013年度秋季大会の企画・運営について

関西外国語大学・鹿浦佳子氏よりご挨拶と準備状況についての報告があった。

学会の調査研究推進委員会からのセミナー開催および公益財団法人国際文化フォーラムからの説明会開催の要望について、内容面は承認され、会場手配やタイムテーブルの調整を行うことになった。

#### 2. 今大会実施状況中間報告について

1日目の受付周辺の混雑や、一部のパネルセッションの進行方法など、改善の必要性が指摘された。

#### 3. 次期委員長の選出

次期委員による互選の結果、庵功雄氏が次期委員長に選出された。次期副委員長については、次回委員会までに次期委員長が指名する。

#### 4. 各ワーキンググループ（WG）による報告

大会委員会企画/パネル検討WGおよび発表形態検討WGによる作業状況についての報告があり、次期委員会でも引き続き審議することになった。

#### 5. 2014年度春季以降の大会について

2014年度春季大会は創価大学（東京都八王子市）で開催することを決定した。日程は、2014年5月31日（土）、6月1日（日）の予定である（開催校の都合により例年の日程より1週間後の開催となる）。2014年度秋季大会は、富山国際会議場で開催することを決定した。2015年度以降については引き続き調査・検討中であることが報告された。

#### 6. 今後の委員会日程について

次回の委員会（委員交代後の第1回目）は、2013年7月6日（土）に都内の会議室（予定）において行う。

（砂川 裕一）

◆2013年7月6日（土）、2013年度第2回大会委員会が開催された。主な議題と審議の概要は以下のとおりである。

#### 1. 2013年度秋季大会（関西外国語大学）準備の進捗状況について

使用教室の手配状況、当日のタイムスケジュールを確認した。

調査研究推進委員会によるセミナーおよび公益財団法人国際文化フォーラムによる説明会の申請について承認され、タイムテーブル上の枠を決定した。

#### 2. 2013年度春季大会発表者の選考について

審査の結果、口頭発表39件、ポスター発表24件、パネルセッション8件、デモンストレーション発表5件を採択した。審査後、不採択者に送付するコメント執筆担当者、コメント取りまとめ担当者、発表会場の割振り案作成担当者などを決定した。

#### 3. 2014年度春季大会以降の企画・運営について

2013年度秋季大会に向け検討していた「大会委員会企画/パネルセッション」について、パネリストの日程等の細部調整のため、2014年度春季大会に延期することを決定した。

庵委員長より2014年度秋季大会は大会前日（金曜）の夜にプレイベントを企画することが提案された。

野山副委員長より2015年度秋季大会は沖縄国際大学（琉球大学との共催）での開催を検討していることが報告された。

#### 4. 大会研究発表規定の改定について

「引用文献の挙げ方」および「パネルセッションのタイムテーブルの提出」に関する項目の追加について検討し、規定の改定が承認された。

#### 5. 大会運営検討ワーキンググループ（WG）の設置について

幅広い層の参加者に資する大会運営に関する検討のためのWGを設置した。

#### 6. 今後の委員会日程について

次回の委員会は、2013年9月28日（土）に都内の会議室（予定）において行う。

（庵 功雄）

## ● 学会誌委員会

2013年6月22日(土)午後1時~5時、日本語教育学会会議室にて委員会を開催した。7月から新たに編集担当委員となる次期委員もオブザーバーとして参加した。

155号・158号の刊行準備進捗状況および今年度科研究費が不採択となったことを報告した後、以下について審議した。

1. 156号のコラム「海外の学会から」の原稿執筆依頼7件の決定。
2. 156号投稿論文(投稿総数35本(研究論文18, 調査報告9, 実践報告5, 研究ノート3)の審査。
3. 査読判定要領の改定についての検討。
4. 論文投稿における倫理上の問題に関する論文投稿FAQ掲載案についての検討。
5. 次期委員長の選出。互選の結果、齋藤ひろみ氏が次期委員長に選出された。次期副委員長については、次回委員会までに次期委員長が指名する。

次回委員会予定: 2013年11月2日(土)

(山内 博之)

## ● 研究集会委員会

### ◆ 研究集会実施報告

1. 2013年度第1回研究集会(九州・沖縄地区)

日時: 2013年6月1日(土)13:00-17:20, 6月2日(日)10:00-16:20

会場: 6月1日(土)活水女子大学東山手キャンパス4号館, 6月2日(日)長崎外国語大学本館およびメディアセンター

参加人数: 123名(会員74名, 一般49名)

内容: 講演, ワークショップ, 研究発表(口頭11件, ポスター10件, ラウンドテーブル2件), 活動報告(ポスター1件)

講演・ワークショップ講師: 吉岡英幸氏(早稲田大学名誉教授)

講演題目: 「日本語教材の変遷と現状」

ワークショップ題目: 「目的に合わせた教材の選び」

今年度も昨年度同様に、プログラムを「土曜日は少しアカデミックに、日曜日は実践中心で」という方針で組み立て、口頭発表と講演を土曜日に、ワークショップとポスター発表、ラウンドテーブルを日曜日に配置した。今年度は、土曜日と日曜日で会場が異なり、2大学で開催したため、参加者の動向が気がかりであったが、参加者数は2日間を通して120名を超え、会員だけではなく非会員の参加者も多かった(全体の約4割)。

土曜日の口頭発表は3教室に分かれて開催されたが、どの教室も30名近い参加者があり、活発な質疑応答が行

わされていた。また、吉岡英幸氏による講演では、日本語教材について、学習内容・対象者・媒体などによる教材の特徴や変遷、教材から見た必要とされる日本語能力観、さらに現状と動向などについて解説が行われた。

日曜日には、前日の講演に引き続き、まず吉岡氏による教材の選び方に関するワークショップが開かれ、参加者は実際に20種類の教科書をグループごとに分析しながら教材の特徴をまとめた。ワークショップ後には昼食交流会を開催し、食事をとりながら参加者同士の交流を深め、同じ会場でポスター発表を実施した。ポスター発表は11件(研究発表10件, 活動報告1件)と、昨年度よりも大幅に増加した。日曜日はポスター発表後に2件のラウンドテーブルもあり、日曜日は朝から夕方まで様々な角度から実践的な内容を学び、議論を交わす機会となった。

今年度も2日間を通して、九州・沖縄地区外からも多くの方に参加していただき、土曜日の夕方に開催された懇親会も含めて充実した研究集会となった。

(報告者: 中島祥子)

2. 2013年度第2回研究集会(中部地区)

日時: 2013年6月15日(土)10:00-16:25

会場: 名古屋外国語大学7号館

参加人数: 106名(会員70名, 一般36名)

内容: 講演, 研究発表(口頭13件)

講演講師: 松本一子氏(愛知淑徳大学非常勤講師), 菊池寛子氏(西尾市早期適応教室指導員)

題目: 「日本定住を選んだ子どもたちの進路保障」

今回は3会場に分かれ幅広いテーマで13件の口頭発表が行われ、それぞれ活発な質疑応答がなされた。また、昼食時には約50名が参加する恒例の交流会が開催された。交流会後の講演では、松本一子氏より、国レベル、及び県レベル(愛知県)で1990年代以降のような外国人児童・生徒の受け入れ施策が実施されてきたかが紹介された。菊池寛子氏からは西尾市の「外国にルーツを持つ子供及び保護者への働きかけ体制」が紹介され、それに続いて今後の課題についての議論が行われた。外国人児童・生徒の教育を受ける権利を奪わないことの重要性や正規の教育機関が主導権を握ることの重要性、さらに就学義務化の可能性について意見の交換が行われた。

(報告者: 衣川隆生)

3. 2013年度第3回研究集会(北陸地区)

日時: 2013年6月22日(土)10:00-17:30

会場: 石川県政記念しいのき迎賓館

参加人数: 108名(会員41名, 一般67名)

内容: 講演, ワークショップ, 研究発表(口頭3件, ポスター3件), 北陸地区の地域日本語教室・団体活動紹介(ポスター展示), よろず相談+情報交換会

講演講師: 徳増ゆかり氏・柴田智子氏(プリンストン大学)

題目: 「ホームステイとコミュニティへの関わりが日

本語学習者に与える影響」

ワークショップ講師：札野寛子氏（金沢工業大学）

題目：「プログラム評価のイロハと評価計画作成トライアルー自分が担当する日本語教育活動を評価してみるとしたらー」

今回の地区研究集会では、まさに「地区」研究集会の名称にふさわしい成果をあげることができた。まず金沢市で20年以上にわたり実施されてきたアメリカ・プリンストン大学のサマープログラム（PII）に関する講演、同じくサマープログラム運営から導かれた金沢工業大学札野寛子氏によるプログラム評価のためのワークショップは、北陸地方における優れた教育研究活動を他の団体が共有する貴重な機会となった。次に、初の試みであった地域の日本語教室・団体活動紹介やよろず相談＋情報交換会では富山、福井の研究集会委員の多大な協力のもと、13団体の地域の日本語支援グループの積極的な参加を得ることができた。この試みは北陸地域で日本語教育活動に携わっている人や団体間の情報共有、ネットワーク化に大きな貢献を果たしたと言える。参加者数も100名を超え、一般参加者が学会員よりも多かったことは、研究集会を地方の日本語教育関係者を主役とした会として企画したことの結果であろう。同時に、アンケートでは研究発表に対しても高い評価を得ていることが分かった。今後も地域の利益に資する研究会の実現に向けて努力したい。

（報告者：松田真希子）

◆ 2013年度後半の研究集会予定

1. 第6回研究集会（関西地区）  
2013年8月31日（土）、京都外国語大学
7. 第7回研究集会（中国地区）  
2013年11月9日（土）、島根大学
8. 第8回研究集会（東北地区）  
2013年11月16日（土）、東北大学
9. 第9回研究集会（四国地区）  
2013年11月30日（土）、愛媛大学
10. 第10回研究集会（関西地区）  
2014年3月予定、会場未定

※各地区研究集会のプログラム、発表要旨、発表募集情報等は、日本語教育学会ウェブサイトの研究集会ページに掲載しています。

<http://www.nkg.or.jp/menu-syukai.htm>

◆会議記録

1. 全体委員会  
・2013年度第1回研究集会委員会全体委員会  
(2013年5月26日、立教大学)

<審議事項>

- (1) 研究集会ガイドラインについて

<報告事項>

- (1) 2013年度の研究集会計画
  - (2) 各地区委員交代について
2. 関東地区委員会（実践研究フォーラム実行委員会）  
・2013年度第1回関東地区委員会（2013年5月7日）  
・2013年度第2回関東地区委員会（2013年6月12日）  
・2013年度第3回関東地区委員会（2013年7月16日）

◆ 次回会議日程

1. 全体委員会  
・2013年度第2回研究集会全体委員会（2013年10月13日、関西外国語大学（秋季大会会場））
2. 地区代表者会議  
・2013年度第1回地区代表者会議（2013年8月23日）
3. 関東地区委員会  
・2013年度第4回関東地区委員会（2013年10月8日）

● 教師研修委員会

◆研修実施報告

1. イントネーションに焦点をおいた発音指導  
講師：中川千恵子氏（早稲田大学）  
開催日：2013年6月15日（土）  
会場：早稲田大学  
参加者：39名
2. 夏季集中研修「教える・学ぶ・考える」  
—質的研究と学習環境デザイナー—  
ワークショップ①  
「質的研究とSCAT (Steps for Coding and Theorization) を体験する」  
講師：大谷尚氏（名古屋大学大学院教育発達科学研究科）  
ワークショップ②  
「日本語学習の環境デザインを提案する—どう組み立て、どう伝える？」  
講師：神吉宇一氏（一般財団法人海外産業人材育成協会）  
開催日：2013年8月10日（土）～11日（日）  
会場：東京大学

◆2013年度後半の研修予定

1. インターネット映像配信サービスを利用した教師研修と遠隔授業の実際（仮題）  
開催日：2013年10月27日（日）、会場：国際交流基金日本語国際センター予定、定員50名
2. ワークショップ（テーマ：異文化）  
開催日：2013年11～12月予定、会場：未定、定員30名予定
3. ワークショップ（テーマ：ビジネス）

開催日：2014年1月18日（土）、会場：政策研究大学院大学予定、定員30名予定

4. 教室活動のデザインⅥ（テーマ：教室活動）  
開催日：2014年1月～3月予定、会場：未定、定員30名×2講座を予定
5. 日本語教師のためのオンラインIT講座  
開催日：2014年1月～3月予定、定員10名予定

※上記はいずれも予定のため、研修タイトルや日時、会場等が変更する場合があります。各研修の募集詳細は決定次第、日本語教育学会ウェブサイトの教師研修ページに掲載します。

<http://www.nkg.or.jp/menu-kenshu.htm>

#### ◆会議記録

1. 2013年度第1回教師研修委員会（4月13日）
  - (1) 2012年度研修報告
  - (2) 2013年度夏季集研修
  - (3) 2013年度研修計画
  - (4) その他（委員業務について）
  - (5) 委員交代および懇親会について
2. 2013年度第2回教師研修委員会（6月29日）
  - (1) 教師研修委員会の活動概要説明
  - (2) 委員交代（委員長・副委員長の決定）
  - (3) 研修実施報告
  - (4) 2013年度夏季集中研修
  - (5) 2013年度のその他の研修
  - (6) 2013年度委員会会議日程

#### ◆次回会議日程

1. 2013年度第3回教師研修委員会（2013年9月27日）
2. 2013年度第4回教師研修委員会（2013年12月6日）  
（館岡 洋子）

## ◇ 事務局からのお知らせ ◇

### ● 2013（平成25）年度会費納入のお願い

当学会の事業活動の円滑な推進を通して、会員をはじめ関係者各位の教育・研究に資すること、並びに、海外における日本語教育活動との交流や支援に寄与することが一層求められています。学会の活動の重要性をぜひご理解賜り、会費納入にご協力くださいますようお願いいたします。

ご送金の際は、必ず会員番号を通信欄に明記してください。

#### <会費納入方法>

- 郵便振込 00140-5-64631
- みずほ銀行新橋支店（普）130-880757
- 現金書留
- クレジットカード支払（海外在住者のみ受け付けます。事務局にお問い合わせください）。

### ● 年度会費自動引落システムのご案内

日本国内に銀行口座等をお持ちの方々に、「年度会費の自動引落システム」をご用意しております。全国の金融機関（銀行・信用金庫・信用組合・郵便局等）でご利用いただけます。詳しくは事務局会員サービス係（[kaiin@nkg.or.jp](mailto:kaiin@nkg.or.jp)）までお問合せください。

#### <年度会費>

- 普通会員 10,000円（年度額）
- 賛助会員 一口50,000円（年度額）

### ● 住所等の変更について

所定の書式にご記入の上、郵便または下記のいずれかの連絡先にお知らせください。

FAX：03-5216-7552／E-mail：[kaiin@nkg.or.jp](mailto:kaiin@nkg.or.jp)

なお、メールアドレスを新設された方や、メールアドレスを変更された方は、①会員番号②氏名③名簿への記載の可否を、メールでお知らせください。タイトルは「学会員メールアドレス登録」としてください。電話での連絡は、ご遠慮願います。

### ● 学会誌メールアドレスについて

学会誌に関連するお問合せは、学会誌専用アドレスにご連絡ください。

学会誌専用：[gakkaishi@nkg.or.jp](mailto:gakkaishi@nkg.or.jp)